

大阪北部地震に次いで西日本大豪雨… 一刻を争って救助、被災者支援と復旧を



荒川区も豪雨災害の危険が

豪雨災害にあわれたみなさまに心からお見舞いを申し上げます。また亡くなられた方々に心から哀悼の意を表します。

一刻を争つて救援活動の強化、とりわけ多数の方が猛暑の中避難生活をしておられ避難生活環境改善など緊急課題です。

災害列島に住んでいる日本この備えとともに、本
大阪北部地震に続き、こんど
は西日本を襲つた大豪雨です。
一夜にして嘗々と築いてきた地域が消失、多くの尊い人命が奪われました。今回の豪雨は、12府県で死者175人に上る（11日現在）など時間を追うことなく被害が拡大しています。すでに災害救助法が8府県98自治体に適用されるなど過去例のない大災害となっています。

食料の「ローリングストック」はおすすめ、簡易トイレなど家庭内備蓄も工夫して

今回の豪雨被害は、自然災害の恐ろしさを示しました。地震、水害問わず、いざという時の備えは必要。いま備



費し買い足していくものです。無理なく、賞味期限を気にせずにストックできそうです。



また携帯トイレ（断水や排水不可となった洋式便器等に設置し使用する袋など）の備蓄も必要です。家具転倒防止など屋内安全対策と合わせて、各ご家庭でのとりくみが必要です。

とにかく正面から向き合い、気で災害対策の強化を

荒川区は、現地自治体に問い合わせていますが、具体的な支援はこれからです（10日現在）。ぜひ積極的な対応を求めたいと思います。

日本共産党は、全国で募金活動とボランティアを呼びかけるとともに、他の野党とも共同して、豪雨災害対策を最優先した対応を政府に求めていきます。

荒川区も水害は無縁ではありません
国が 200年に一度など豪雨で荒川の堤防が決壊した想定を示し、荒川区も具体的な水位と避難行程表を示しています

避難とともに、決壊の可能性が指摘されている堤防の補強など抜本が必要です。「天災は忘れた頃にやってくる」ではありますまいが、改めて災害対策を政治第一の「安全保障」として取り組むべきです。

横山幸次

区政報告 ニュース

702

2018年7月15日
発行 日本共産党区議団
3802-4627
fax 3806-9246
araicp@tcn-catv.ne.jp

横山区議事務所
荒川区町屋5-3-5
3895-0504
Eメールアドレス
kouji.office@gmail.com

町屋事務所のメールアドレスを変更しました。
kouji.office@gmail.com
です



配備されている岡崎市消防所から出動、昨年7月の九州北部の豪雨災害で派遣された（下）

全国でレッドサラマンダーは1両あるだけですが…
災害列島でこの体制でいいのか？これで「国土強靭化」？

今回の西日本豪雨で注目を集めているのが、「あらゆる災害現場への人員・物資の搬送や救助救援活動」が可能な全地形対応車レッドサラマンダー（左写真）と呼ばれる特殊車両です。東日本大震災を教訓に消防庁の切り札として配備。昨年の九州の豪雨に初出動しました。しかしこの車両は、全国に一両、愛知県の岡崎市に配備されています。愛知県の岡崎市に配備されるだけです。今回の派遣先は広島でなく岡山のようです。しかし島でなく岡山のようです。しかし島でなく岡山のようです。

なんとも納得できません。欠陥機オスフレイ1機170億円ですが、レッドサラマンダーは、1億円ちょっとです。また、今回大被害を受けた倉敷市真備町は、過去も同じ河川が繰り返し氾濫し、今回も同じ浸水域を想定、河川改修の計画もあつたようですが、実施されません。安倍政権の目玉「国土強靭化計画」って何だ？わかっていないだけです。河川改修が遅れたとすれば、国、地方問わず政治の不作為が厳しく問われるでしょう。

（横山幸次）



裏面 手話言語条例、 区の基金は...など

定例法律相談会
8月の法律相談
はお休みします
次回は9月3日

(お急ぎの場合ご連絡下さい)

弁護士と横山区議が相談をお受けします。お急ぎの場合は、北千住法律事務所の相談日などご紹介します。
生活相談は、随時受付ています。
TEL&FAX 3895-0504
不在時は、留守電へ、後で連絡します。
区役所控室 3802-4627



手話言語条例が制定されました 誰もが安心して暮らせる地域へ



条例制定後、区役所前で関係者と記念写真

**手話をはじめ点字、筆談、難聴対策など
情報・コミュニケーション、社会参加保障を**

手話は、聴覚障害者の中でもう者の言語です。一方「難聴者」と「中途失聴者」は、日本語がベースで筆談などで情報アクセスやコミュニケーションをとることができます。また、難聴・聴こえの問題では、補聴器の使用などが必要です。視覚障害者の場合は、点字とともに音声による読書権保障や代読、代筆なども課題です。災害時のコミュニケーション手段もいまからしっかりした準備が必要です。これらに対応するために情報コミュニケーション条例の制定も急がれます。



今週のデータ 富裕層上位40人の資産は日本全世帯下位半分の資産と同じ

「富裕層上位40人の資産」
日本の全世帯の下から半分が持つ資産（預貯金など）」…
実はアベノミクスの正体は「超富裕層だけの資産倍増計画」。加えて、貯蓄ゼロ世帯を427・4万世帯も増加させ、貧困と格差をかつてない規模で急激に拡大させているのがアベノミクスなのです。
世界では、大富豪8人が地球人口下位36億人分の資産と同じと国際機関から発表。度外れた格差貧困は、社会の持続可能性を壊します。ボストン資本主義が世界的に模索されているのも当然です。



7月5日の区議会本会議で、荒川区手話言語条例が全会一致で可決・成立。23区では2番目の制定となりました。荒川区聽覚障害者協会のみなさんや手話通訳者、手話サークルの方々など30名以上が傍聴。みなさん喜びにあふれていきました。

共産党区議団は、条例賛成討論（斎藤くに子区議）で手話言語が手の形、位置、動き、眉の上げ下げうなずきなど表情にも文法的な意味があり、音声言語と対等な言語である、手話が不

う者の生きる力であるだけに、手話への理解及び普及をすすめる施策の具体化を求めました。今後区は、遠隔手話通訳サービス・電話代行サービス・簡単な日常手話修得の講習会事業者向けの手話通訳者無料派遣事業・理解促進映画会(8月予定)条例制定記念イベント(11月予定)など進めます。

同時に共産党区議団は、委員会で以下の実現を求めました。区役所各窓口に手話推進委員会設立者の雇用促進

遠隔手話通訳・筆談・音声認識機能が入ったタブレットは障害福祉課以外にも配置

図書館に手話特設「ナード」店舗、事業所、病院などに筆談ボードや筆談ボイントガイド配



**当初見込みを上回って基金は増加！
区財政からも区民の要求実現は可能**

左下の表は、今年段階の区の貯金＝其残高＝327億円余りとあります。しかしこれ7年度の予算段階で年度末で281億円見込んでいましたが、億円も上積みしてしまいます。さらに2017年度決算はこれからですので、決算に合わせて剩余金が発生、ほぼ全額積みますのでこの額をさかみに上回ることは確実です。

しかも使途目的のない財政調整基金は、場合によつては17

2018年4月の各基金状況(監査報告より)	
財政調整基金	16,815,493,416
災害対策基金	1,427,827,705
特別区債等管理基金	3,329,354,157
義務教育施設整備基金	5,728,186,893
産業振興基金	725,995,598
健康・福祉基金	188,993,674
公共施設等整備基金	3,289,043,024
スポーツ振興基金	98,465,961
芸術振興基金	100,038,473
介護保険給付準備基金	1,049,739,569
合計	32,753,138,470

4月
金の
なつ
0 1
は、
は、
余で
0 億円台にのぼる可能性
もあります。
そもそも区民のためを
定した予算の使い残しで
す。その一部を区民の尊
らし応援に回すことは、